

い」の要求。国民の玉木雄一郎氏は「任期延長をはじめとした緊急事態条項の条文案を取り扱うのが」と主張。

審査会後、立派の中川正貴氏は記者團に「改憲の入実的ではないか」と主張。作業部会の設置を求めた。

改憲条文案検討 立民抜きに言及

公明「賛成会派だけ」

公明党の北側一雄氏は30日の衆院憲法審査会で、立憲民主党を除いた改憲勢力だけで条文案検討に着手する可能性に言及した。緊急事態時の国会議員任期延長を巡り、「立派の中でも全く必要がない」と書つならば、賛成会派だけで条文案を検討するステージに入らねえを得ない」と述べた。岸田文雄首相が来年9月までの自民党総裁任期中の改憲に意欲を表明する中、与野党の幅広い合意形成よりも意見集約に軸足を置く姿勢を示した形だ。

自民、公明、日本維新の会、国民民主党、衆院会派「有志の会」の5会派は、緊急時の議員任期を延長する改憲は必要との立場で一致している。北側氏は「議論は相当熟詰まっている。立派と一緒に条文案を検討でもういいと期待はしているが、早く結論を示してほしい」と語った。

審査会後、立派の中川正貴氏は記者團に「改憲の入実的ではないか」と主張。テップに進むなりば、国民の理解が必要だ。審査会の中が分断するような議論をしたら、国民も分断されてしまう」と反論。自民の中谷元氏は「公明が問題提起したので、協議ができるようにしてほしい」と語った。